GakuNin RDM-JAIRO Cloud 連携試行に参加して

ー研究データ公開のための機能はどうあるべきか？ー

東北大学データシナジー創生機構
元木正和

GakuNin RDM-JAIRO Cloud連携試行の実施体制

- 実際のロールを割り当て、JAIRO Cloud担当者（図書館）、研究者、GakuNin RDM担当者（データシナジー創生機構）のそれぞれの実際の担当者に参加いただいた。

- 連携試行参加者（敬称略）：

  JAIRO Cloud担当者：武田、三角（現三重大）、他（図書館）

  研究者役：元木（データシナジー創生機構）

  GakuNin RDM担当者：佐藤（データシナジー創生機構）

（なお、本資料の作成も上記の方にご協力いただきました）

GakuNin RDM – JAIRO Cloud連携試行
ー検討リストー

- 図書館など関連組織の運用体制　→OK（ただしスモールスタートなら）
- 研究データ管理公開ポリシー　→OK（ガイドライン未整備）
- 機能面の不足と要望　→後で説明
- 研究者との連携試験　→未検討
- 即時OA義務化予算で実装した機能とのすみ分け　→未検討
- 自機関およびNIIとの他サービスとの連携など　→未検討

作業中・後の意見、と、その確認

- 【図書館担当者】図書館員アカウントからは教員からの登録申請をToDoで可視化し、内容確認の上承認できること。→できている。
- 【プロジェクトユーザー】教員は、JAIRO Cloudの「図書館員」と「教員」の権限のうち、「教員」の権限を与え、**教員がGakuNin RDMとJAIRO Cloudを接続することが必要。→支援必要かも。**
- 【図書館担当者】**JAIRO Cloudの教員用のID,パスワード配布どうしよう？→本年度秋の学認でログインできるのを待つのが良さそう。**
- 【プロジェクトユーザー】 JAIRO Cloudの**インデックス**は教員ごとに違うものとなるシステムに思える（テスト中の問題）　→　【図書館担当者】インデックスについては、教員ごと異なる運用は不可能なので、例えば「教員用」インデックス一つにまとめたい→（できそう）。教員からはこのインデックスのみ登録できる（かつ、不要なものは選択できない）、とできると良い。
- 【プロジェクトユーザー、図書館担当者】問題点：教員用アカウントでログインしていると自分が申請したもの以外のアイテム登録ワークフローが見えてしまう（操作権限はなし）問題　→？
- 【プロジェクトユーザー】JAIRO Cloudでの公開のためのGakuNin RDMでのデータへのメタデータ付与について、リポジトリ公開のための作業の場合、明示的にJPCOARスキーマを利用いただく方がわかりやすい、と思う。（FA用ではなく）

図書館担当者の意見・要望（運用）

- 教員と学生を区別したい。できれば、学生は学位論文だけとしたい。（学生の場合、教員に確認→公開、のステップが増える）
- JAIRO Cloudのインデックス周りで、部局へ公開作業を分担できる機能があると良い、かも。（学認の情報で、ユーザーごとにインデックスを所属部局に分ける、など）
- 図書館担当者に公開データが登録された旨、プッシュでお知らせがあると良い。
- 大規模データ（または、研究データ全て）をJAIRO Cloudに登録するのはコストが高いので、機関リポジトリにはURLの情報を載せてデータは機関が用意するGakuNin RDMのS3拡張ストレージに置きたい。（そもそもJAIRO Cloudに登録可能なファイル形式（csv, pdf, 等々）の条件に該当しないデータも多いと思われる）

その他要望

- 【将来の課題。即時OAで機能作成した大学共通】各大学で即時OAに対して準備しているメタデータ付与機能とGakuNin RDMの本機能の連携機能について、将来検討いただきたい。こちらでも連携方法提案に向けて検討する。
- JAIRO CloudのGakuNin RDM連携のロードマップを早めに示して欲しい、研究者への説明の際に、将来的に連携を考えているとアナウンスに入れるかどうかで、受け止め方が変わる（やり方がコロコロ変わると、研究者側がストレス）。
- 率直に言って、現行の「プロジェクトメタデータ」は、入力に相当にストレスを感じる、図書館側としても、なかなか研究者に入力をお願いしにくい。なんとかならないか？
- 政府のFAメタデータのスキーマでなく、JPCOARスキーマに対応して欲しい。
- ~~教員が、学認でJAIRO Cloudへログインできるようにする。この際に、JAIRO Cloudの「教員」権限を持ち、各教員共通の「登録用インデックス」へデータを登録できるようになると良い。（共通のIDパスワードの配布の代わりに）~~

本学で想定している機関リポジトリへの研究データの登録のパターン（本学で検討中のもの）

１．主アイテム(論文等)の一部として、IZUMI上に置いた研究データのURLを付随させる。

（注意：IZUMIに登録している研究データ単体へのDOI付与はできない。）

２．個別の1アイテムとして研究データのURLを登録し、要望に応じてDOIを付与。

（メリットとしては、他のアイテム（論文や他研究データ）との関係性やリンクを記述可）

注：機関リポジトリに研究データは登録しない。研究データは本学が用意する研究データ用ストレージ（IZUMI）に登録して、そこでURLを割り当てる。

注2：限定公開データの場合は、「※リンク先は〇〇限定公開です」等の注記をつけることで、”研究データの存在”を機関リポジトリで公開することが可能。

機関リポジトリ上の画面イメージ

（武田さん提供）

最後に

- GakuNin RDM – JAIRO Cloud 連携試行を通じて、関連各所の連携が強まった、という、素晴らしい副産物がありました。
- NIIの関係者の皆様、引き続き、研究データ管理公開の推進のために、引き続きご協力お願い致します。

最後に（2）
東北コンソーシアム参加募集開始します。

https://consortium.rdx.tohoku.ac.jp/

機関リポジトリなども重要なテーマの一つです。